

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 4 報
千葉県農林水産部
平成27年7月15日

早生品種の出穂期は平年と比較して5～7日程度早い いもち病などの病害虫防除は確実に 出穂2週間後までは湛水管理を実施

[生育概況]

4月20日頃に移植した「ふさおとめ」「ふさこがね」は、平年より5～7日程度早く出穂期を迎え、成熟期は8月6日頃からと予測されます。ただし、梅雨入り以降は、平年と比較して気温が低く、日照時間が少ない時期があり、地域や品種による生育進度の差が見られます。

また、4月20日頃に移植した「コシヒカリ」は、早いところでは平年より5日程度早く出穂期を迎えると予測され、5月1日頃に移植した「コシヒカリ」は平年並みの7月23日頃に出穂期を迎えると予測されます。

表 1 品種別の出穂期（出穂期予測を含む）

| 品種 | 植付時期 | 出穂期（一部、予測値） | | | |
|-------|-------|-------------|---------------|-------------|-------------|
| | | 県北 （成田市） | 九十九里 （茂原市） | 内湾 （千葉市） | 県南 （館山市） |
| ふさおとめ | 4月20日 | 7月10日 | 7月5日 | 7月4日 | 7月4日 |
| ふさこがね | 4月20日 | 7月12日 | 7月7日 | 7月6日 | 7月8日 |
| コシヒカリ | 4月20日 | 7月20日 | 7月16日 | 7月15日 | 7月18日 |
| | 5月1日 | 7月23日頃 | | | |
| ふさのもち | 4月20日 | — | — | 7月13日 | — |
| | 5月10日 | 8月1日 | 7月27日 | 7月28日 | — |

※出穂期は、水稻作柄安定対策調査の結果及びその結果から予測

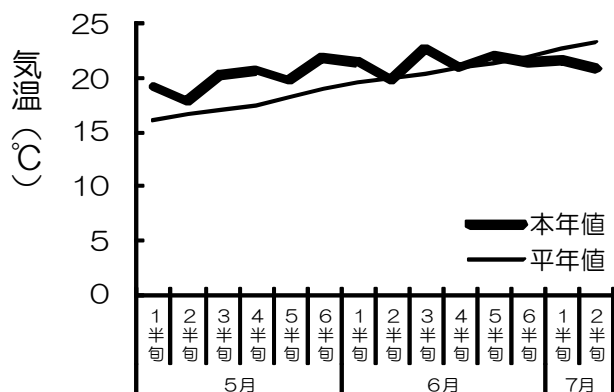


図 1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

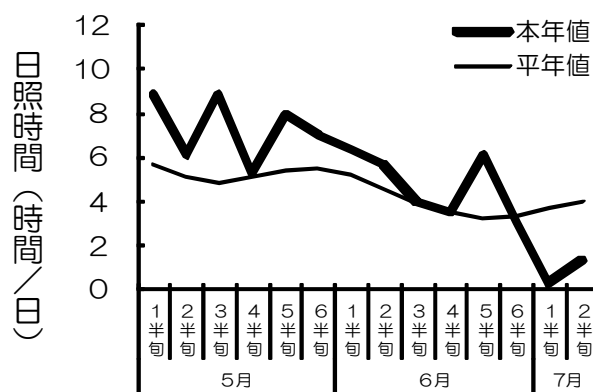


図 2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

[これからの管理のポイント]

■ 適期作業の実施

「ふさおとめ」は8月6日から、「ふさこがね」は8月12日から成熟期を迎えると予測されます（表2）。

今年は、地域や品種による生育進度の差が見られますので、乳白米の発生を防止する水管理などは、ほ場をよく見て、生育に応じた作業を適期に実施しましょう。

また、6月下旬から7月上旬の降雨と低温により、葉もちが広い範囲で発生していますので、ほ場をよく観察し、適期防除に努めましょう。

表 2 品種別の成熟期の予測

| 品種 | 植付時期 | 成熟期予測 | | | |
|-------|-------|-------------|---------------|-------------|-------------|
| | | 県北 (成田市) | 九十九里 (茂原市) | 内湾 (千葉市) | 県南 (館山市) |
| ふさおとめ | 4月20日 | 8月12日～ | 8月7日～ | 8月6日～ | 8月6日～ |
| ふさこがね | 4月20日 | 8月18日～ | 8月13日～ | 8月12日～ | 8月14日～ |

※実測値から、各品種の出穂期から成熟期の標準的な日数を加えて予測

■ 病害の防除

○いもち病

止葉などの上位葉に葉もちの病斑がある場合は、穂いもちに移行し減収するおそれがあることから、穂ばらみ期に治療効果のある薬剤で防除しましょう。さらに発生が続く場合は、天候等を考慮した上で穂揃期にも追加防除を行いましょう。



図3 葉もちの病斑

○紋枯病

穂ばらみ期に発病株率15%以上の場合、薬剤散布を行い防除しましょう。

今年は、紋枯病が多く発生しているほ場が確認されています。紋枯病による葉鞘の枯れ上がりは倒伏を助長しますので、ほ場をよく見て適期に防除しましょう。

表 3 いもち病、紋枯病の主な防除薬剤

| 薬剤名 | 病害名 | |
|-------------------|--------|--------|
| | いもち病 | 紋枯病 |
| オリゼメート粒剤 | ○予防 | |
| キタジン P 粒剤 | ○予防 | |
| コラトップ 粒剤 5/ジャンボ | ○予防 | |
| ブイゲット粒剤 | ○予防 | |
| フジワン粒剤 | ○予防 | |
| ルーチン粒剤 | ○予防 | |
| ラブサイド粉剤 DL | ○予防 | |
| イモチエース粒剤 | ○予防・治療 | |
| ダブルカットフロアブル | ○予防・治療 | |
| ノンプラス 粉剤 DL/フロアブル | ○予防・治療 | |
| ブラシン 粉剤 DL/フロアブル | ○予防・治療 | |
| カスミン 粉剤 DL/液剤 | ○治療 | |
| モンガリット粒剤 | | ○予防 |
| バンタック水和剤 75 | | ○予防・治療 |
| バリダシン 粉剤 DL/液剤 5 | | ○治療 |
| モンカット粒剤/フロアブル | | ○予防・治療 |
| モンカットファイン粉剤 20DL | | ○予防・治療 |
| モンセレン 粉剤 DL/フロアブル | | ○予防・治療 |

※農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍率、収穫前使用日数、総使用回数などが定められています。ラベルをよく読んで、適正に使用しましょう。

■ 乳白米の発生を防止する水管理

～出穂2週間後までは湛水管理を行いましょ～

出穂期から出穂2週間後は、米の品質を決定する重要な時期で、登熟期の水不足は、乳白米等の白未熟粒の多発生による品質低下の原因になります。梅雨明け後の高温・水不足に注意し、湛水管理をしっかりと行い、品質低下を未然に防ぎましょう。

また、その後、出穂2週間後から出穂25日後までは間断かんがいにし、徐々に田面を固め、コンバイン収穫に備えましょう。

なお、早期落水は品質低下を招く原因となります。今年は地域や品種による生育進度の差が見られるため、ほ場毎に適切な水管理を行いましょ。

■ 斑点米カメムシ類の防除

防除適期は、成虫飛来期である穂揃期と幼虫発生初期である出穂15日後頃です。

今年は移植時期や品種によって収穫時期が大きく異なるため、薬剤の選定や使用にあたっては収穫前使用日数に注意しましょ。また、隣接するほ場の方が収穫時期が早くなることが見込まれる場合は、より慎重に散布を行いましょ。

なお、出穂が、周辺よりも早いものや遅いものは、集中的な被害を受けることがあるので、注意が必要です。ほ場をよく見回り、適期に防除しましょ。

大型のカメムシ類は、水田の周辺に生息していた成虫が、出穂後の水田に侵入して水田内で産卵し、ふ化した幼虫が乳熟期以降に穂を吸汁加害することで斑点米が発生します。成虫より幼虫による被害の方が大きく、乳熟期から糊熟期の吸汁によって被害が発生します。

アカスジカスミカメ等のカスミカメムシ類は、小さく発見しにくい害虫です。天候と生育の関係で登熟中の籾殻が開く（籾割れ・ふ割れ）と、開いた所から吸汁し、被害を与えます。

なお、病害虫発生予報第4号（農林総合研究センター7月8日）によると、斑点米カメムシ類（特にカスミカメムシ類）の予想発生量は「やや多」と発表されています。



図4 アカスジカスミカメの成虫
体長は約5~6mm
(農林総合研究センター病害虫防除課)

表 4 斑点米カメムシ類の防除薬剤

| 収穫前 使用日数 | 使用 回数 | 薬剤名 |
|--------------|----------|---|
| 収穫7日前 まで | 2 | エルサン粉剤3DL、エルサンバッサ粉剤 20DL、MR.ジョーカー粉剤 DL |
| | 3 | トレボン粉剤 DL、スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤、スタークル（アルバリン）粉剤 DL、ダントツ水溶剤、ダントツ粉剤 DL |
| 収穫14日前 まで | 2 | MR.ジョーカーEW、キラップフロアブル、キラップ粉剤 DL |
| | 3 | トレボンMC |
| | 4 | ベストガード粉剤 DL |
| 収穫21日前 まで | 2 | スミチオン乳剤、スミチオン粉剤3DL（出穂前散布は1回） |

※農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍率、収穫前使用日数、総使用回数などが定められています。ラベルをよく読んで、適正に使用しましょう。

■ 飼料用米等の取組計画書の提出期限が延びました！

取組計画書の提出期限が6月末日から「7月末日」までに1か月間延長されました。今からでも飼料用米に取り組むことができますので、最寄りの市町村にお問い合わせください。

次回の「水稻の生育状況と当面の対策」は、7月30日発行予定です。